

第4回 校長会議あいさつ

R.6.6.21 稲垣

梅雨の始まりを告げるように紫陽花が彩を増しています。各学校では、一学期の大きな学校行事が終わり、プールが始まったり、夏の大会に向けての練習に取り組んでいることと思います。

本日は二点についてお話しします。

一点目は、今月初めに参加した愛知県都市・町村教育長代表者会についてです。そこでは、私たちが抱える教育の諸課題について、県内全市町村教委に実施したアンケートの結果をもとに話し合いました。そのまとめとして確認した改善の方向性について、主なものを以下に列記します。

① 教員・講師不足、新規採用について

学校の窮状(年度当初欠員・産育休補充者不足・校務教務担任)の改善

採用計画と配置の見直し 正規教員による定数充足 新採教員の副担任スタート

② 加配等各種人員の配置について

副校長・教頭マネジメント支援員・主幹教諭・特別支援教育コーディネーターの定数配置

教科担任制の教科拡充 養護教諭の複数配置基準引き下げ 定年延長者の活用計画

③ 休日部活動の地域移行について

受け皿を作っていくための予算補助 教員の兼業ガイドライン

今後の方向性(学習指導要領改訂の見通し) 中体連全国大会の在り方

④ GIGAスクールの整備について

端末更新時の国庫補助の堅持と県補助の新規設定 ICT教育支援員の配置

⑤ 少子化・小規模校、へき地の課題について

へき地教育の質の保障 へき地公立高校の維持

⑥ その他

・人事配置における規制緩和 ・特別な支援を要する児童生徒への人的支援

・施設の長寿命化への補助 ・高校入試の義務教育との整合性

二点目は、学校運営における今後の留意点についてです。今、コロナ禍が明けて一年、和やかさを取り戻した給食や校内に響く歌声など、学校本来の日常が回復してきましたが、ここで特に確認しておきたいことがあります。学校教育は、現代社会という大河に住まう小魚の群れにも喩えられると思います。緩やかに流れる大河の河岸風景は、一見変わっているようには見えないのですが、常に上流に向かって泳ぎ続けていないと、いつの間にか流されてしまうものだからです。思えばコロナ禍は、激流でした。その間、学校はやむを得ず行事を縮減したり、密であるほど高い教育効果の期待できる、人間関係を基盤とする教育活動も抑制せざるを得ませんでした。加えて働き方改革による勤務時間の制約が、教師たちの熱意や工夫に支えられた教育活動にブレーキをかけることにつながったことも危惧されます。さて現状はどうでしょうか。例えば、授業中の話し合い活動のレベルや学校行事に窺われる児童生徒の熱量は、コロナ禍前に追いついたでしょうか。三年目までの先生方の中には、望ましいかわり合いの在り方や児童生徒の輝くような姿がイメージしにくい人もいるかもしれません。コロナ禍のおかげで見直しができたこともありますが、一方で明らかに退行した側面もあることを見据えていかななくてはなりません。校長先生方には、改めて羅針盤を確かめ、リーダーシップを発揮していただきたいと思います。